

# Japan Internet of Things and Intelligent Edge: Security (Japanese Version)

AN IDC CONTINUOUS INTELLIGENCE SERVICE

デジタルトランスフォーメーションの推進によって、IT デバイスだけでなく、IoT (Internet of Things) デバイスの増加と、あらゆるデバイスのネットワークアクセスが急速に進んでおり、新たなビジネス機会の拡大と同時にサイバー攻撃によるセキュリティリスクをもたらしています。また、重要インフラを担う産業用制御システムはサイバー攻撃の標的とされ、制御/運用技術 (OT : Operational Technology) セキュリティは、サービスの安全かつ継続的な提供のため、IT システムとの融合を見据えたセキュリティシステムや体制の強化が課題となっています。

IDC Japan 年間情報提供サービス「Japan Internet of Things and Intelligent Edge: Security (Japanese Version)」では、サイバー攻撃対策に関するセキュリティ製品 (ハードウェアおよびソフトウェア)、IoT や IIoT (Industrial Internet of Things) で利用されるセンサーなどを含めたエコシステムやセキュリティプラットフォーム、および制御/運用技術 (OT) に関わるサイバーセキュリティ製品とサービス市場全体を調査対象とし、主に企業のサイバーセキュリティ対策動向にフォーカスした調査/分析、予測を行います。またサイバーセキュリティ対策製品を目的別に分類し、詳細な市場、ベンダー動向/予測や技術的な将来の方向性についても情報を提供します。2022 年は、サイバーセキュリティ対策を主題に、IT、IoT、OT の幅広いセキュリティ市場のビジネス動向を調査いたします。

## Markets and Subjects Analyzed

- サイバーセキュリティ対策ソフトウェア
- サイバーセキュリティ対策ハードウェア
- サイバーセキュリティ対策サービス
- IoT/IIoT セキュリティ製品/サービス
- OT セキュリティ製品 / サービス

## Core Research

- 分類と定義
- 国内サイバーセキュリティ市場予測
- 国内サイバーセキュリティ市場競合分析
- 国内モバイル/クラウドセキュリティ市場予測
- OT セキュリティ市場動向
- IoT/OT セキュリティプラットフォーム市場動向
- サイバー/OT セキュリティユーザー動向調査
- IDC FutureScape: Worldwide Security and Trust 2022 Predictions - Japan Implications

上記リサーチは市場環境などの変化に応じて変更される可能性があります。発行レポートをご覧になりたい場合は以下 Web サイトをご参照ください。: [Japan Internet of Things and Intelligent Edge: Security \(Japanese Version\)](#).

## Key Questions Answered

- 国内企業のサイバーセキュリティ対策状況、今後の方向性やベンダーへの期待は？
- 国内企業の IoT/IIoT/OT セキュリティ対策導入状況、今後の方向性やベンダーに対する期待は？
- 国内サイバーセキュリティ市場規模および市場予測は？
- サイバーセキュリティ対策の最新テクノロジーと製品は？
- 国内サイバーセキュリティ対策市場での成長要因は何か？
- 国内サイバーセキュリティ市場の牽引に必要なビジネス戦略とは？

## Companies Analyzed

IDC では、次のベンダーの企業戦略、競合状況などの比較/分析を行います (アルファベット順、50 音順)。

Broadcom、IBM、NEC、Tenable、カスペルスキー、サイバーリーズン、シスコシステムズ、チェックポイントソフトウェア、トレンドマイクロ、パロアルトネットワークス、ファイア・アイ、フォーティネット、プルーフポイント、マイクロソフト、マカフィー、富士通、その他